

令和元年第1回臨時教育委員会会議録

1. 開催日時 令和元年7月31日(水)
午後2時00分～午後3時30分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員
- | | |
|-------|---------|
| 教 育 長 | 新 子 寿 一 |
| 委 員 | 山 崎 裕 行 |
| 委 員 | 田 中 保 和 |
| 委 員 | 近 藤 温 子 |
| 委 員 | 西 村 弥生子 |
4. 出席した職員
- | | |
|-------------------|-----------|
| 教 育 部 長 | 福 島 潔 |
| 教 育 監 | 岡 本 泰 典 |
| 教 育 総 務 課 長 | 寺 川 款 |
| 指 導 課 長 | 石 田 智 |
| 教 育 総 務 課 長 補 佐 | 栗 田 聖 子 |
| 指 導 課 長 補 佐 | 浅 田 千 佐 子 |
| 指 導 課 指 導 主 事 | 松 浦 悠 輔 |
| 指 導 課 指 導 主 事 | 北 野 典 子 |
| 社 会 教 育 課 指 導 主 事 | 吉 田 満 |
| 指 導 課 主 査 | 湯 浅 博 文 |

5. 議事案件

議案第32号 令和2年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について

6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長： それでは、令和元年第1回臨時教育委員会会議を開会します。本日の会議録署名委員は、山崎委員、お願いいたします。

それでは、本日の議事に入ります。本日の議案は、1件でございます。

本日の議案であります教科用図書の採択については、先日の第3回定例教育委員会会議に引き続きの審議となります。委員及び関係課のみで進めて参りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

この会議の公開についてですが、採択結果のみは本日、議事録の公開は9月2日以降でよろしゅうございますか。

はい、ではそれでよろしくお願ひいたします。

本日は国語から参ります。事務局より、説明をお願ひします。

湯浅主査 : それでは、国語について説明します。

国語につきましては、全部で4者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてです。光村図書4年生上の教科書15ページをご覧ください。大阪府の選定資料には、「つきたい力と言語活動が単元冒頭に取りあげられ、児童の意欲や主体性が高まる内容が取りあげられている」と書かれています。また調査員からも「言語活動例が、低・中・高それぞれの段階でもれなく扱えるように作成、配置されている」との報告があり、部会からは「説明文の構成の説明や学習の進め方に対する見通しが持ちやすい」という趣旨の意見がありました。

次に「人権の取扱い」についてです。学校図書3年生上の教科書16ページをご覧ください。「文字の大きさ、書体、囲みや罫線による地の文との区別、色使いなどを工夫し、判読しやすい」との報告が調査員からあがっており、他者の同じ学年の教科書と比較しても読みやすいと言えます。

次に「内容の程度」です。教育出版4年生上の教科書74ページをご覧ください。「古典芸能の落語がある」との意見が学校からあがっています。また「重点的に扱う学習の課程を設定して、知識・技能を効率よく学べる教材を選定している」との報告が調査員からあがっています。

次に「組織・配列について」です。東京書籍4年生下の教科書108ページをご覧ください。「社会で学ぶ都道府県の漢字を学習できる内容になっている」との意見が学校からあがっています。

次に「創意工夫」についてです。光村図書6年生の教科書141ページから157ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「『表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう』では、日本文化をパンフレットにまとめて発信する、というゴールが設定され、その達成に向けて『鳥獣戯画』について読む活動、日本文化について調べる活動、集めた情報をもとに提案内容をグループで検討する活動が取り扱われている」と書かれています。また「QRコードが入っていて、動画が見せられる」「カラーや写真が多く使われている」といった意見が部会からあがっています。古文の読みや、説明文の資料にアクセスしやすいと言えます。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。東京書籍5年生の教科書90ページから97ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「著名人が本について語る『本は友達』や、各学年に応じた本と、読書記録等の書き方を紹介する『5年生の本だな』も設けられている。さらに、各学年『読むこと』に、読書体験を交流し合う単元が設けられている」と書かれています。

次に「幼少中一貫教育の観点」についてです。教育出版5年生上の教科書66ページをご覧ください。中学校国語との接続を考え、漢文にも触れられています。部会からも「漢文・古文が入っている」との意見があがっています。

最後に、選定委員会の審議について報告します。

光村図書は参考書を比較的に見つけやすい、並行図書を大幅に買い直す必要がないとの意見がありました。また、東京書籍の参考書はなかなか手に入らないとの指摘がありました。

光村図書や教育出版では単元のねらいがきちんと書かれているという趣旨の意見がありました。

光村図書は生きる力を身につけるための考えさせる作品が多く、東京書籍は隙のない王道作品が多く、学校図書は言葉をツールとしてとらえているといった趣旨の意見がありました。

光村図書には学習の進め方がわかりやすく書かれているといった意見がありました。

東京書籍はそつのない作りであるが、物語文が長く、情報量が多いという趣旨の意見がありました。一方でめあてに対応した振り返りがあり、統一性があって良いという趣旨の意見もありました。

以上で国語についての説明を終わります。

山崎委員：一通り、全者いきたいと思います。

光村図書ですが、5年6年が上下に分かれていない。一冊になっているのが特徴的です。光村と東京書籍もそうになっております。一方、教出と学校図書は5年生、6年生の上下に分かれておりますので、2冊になっているということで、ちょっと会社によって違いはありますが、私は、学校からの意見にもありましたが、重いけれども、学んだことを振り返ることができるという意味では一冊になっていたほうがいいかなと、5・6年生でありますので、そのようなことを思いました。

まず、光村さんですが、巻頭の学習の進め方、あるいは何年生で学習すること、というところがあるのですけれども、1年間の内容を示して目標をより詳しくしているけれども、私が読んだ限りでは子どもには難しいかなと、なかなか興味を持たないのではないかなと、この書き方では、先生には参考になるのですけれども、子どもにはどうだろうということを思いました。続いて、巻末のほうには付録として、補充発展学習にあるような読み物・資料・学んだことなどがまとめら

れていて、これはとてもよくできているなと思いました。それから4点目は、話す・聞く・書く・読む、どれも大事だけれども、とにかく国語では小学生のうちにたくさん本を読んでほしい、読み聞かせもいっぱい聞いてほしい、そういう思いがあります。光村さんには学校の図書館や市の図書館も出てきますし、付録のところに「この本読もう」とか、「本の世界を広げよう」でたくさん本を紹介していますので、そういう意味では子どもたちに良い読書環境を与えてくれているなと思いました。1年の最初「いい天気。さあ、はじめよう」というところがあるのですけれども、これは、友達や先生と交流する場面をしっかりと取り上げていて、国語の勉強を始めようという気になる、なかなか良い教材だなと思いました。6年生の最後の「卒業するみなさんへ」というところでは、谷川俊太郎さんの「いきる」とか、中村桂子さんの「今、あなたたちに考えてほしいこと」これはちょうど卒業してゆく子どもたちにぴったり合っているなというふうに感じました。

東京書籍ですが、巻頭の国語の学習の進め方に、何年生で学習することばの力、6年なら6年生で学習することばの力、これは随分光村さんと比べてわかりやすく、子どもたちにもいい勉強になるなという感じがいたしました。次に、3年のめあてが、冒頭1ページにわたってきっちり書かれていて、何をどんな風に学習するかわかりやすくなっている。あるいは「振り返る」「ことばの力」というので振り返りができるようになっています。それから、巻末には付録がついておりませんが、大変充実しているなというふうに思いました。それから、読書指導ですが、光村さんも随分よく書かれていましたが、東京書籍さんの読書指導はこれはもうちょっと、光村さん以上に充実をしまして、1年でいくと、4月「本がたくさん」、7月「図書館はどんなところ」、10月「本は友達」、12月「すきなお話は何か」、各学年4回こういふところがでてきます。随分読書指導に力を入れてくださっているなということで、こういう意味では、東京書籍さんはいいなと思いました。それから、1年生の最初の「はじまるよ」、これは友達や先生と交流する場面を取り上げて、次に字を書いたり、あいうえおの勉強までつなげていまして、国語の興味を1年生の子ども達に湧かせているという感じがいたしました。1年上の「とん こと とん」という、ぶしかえつこさんのお話がでてくるのですが、この方は三郷にお住いの方でして、近くにいらっしゃるから来てもらえるかもしれないなど、そんな気持ちもあって見ておりました。

教出ですが、ひとつめに、各学年目次の次に「6年生で学ぶこと」、5年生やったら「5年生で学ぶこと」というのがあるのです。これが一覧で示されていますが、目次の焼き直しのような感じがしまして、これだったら目次で十分だろうなと思いました。ふたつめは付録で、何年生で読みたい本、これもたくさんの本を紹介をしていて、読書が進むと思いました。3点目は1年生の最初の「なかよしの木」というのがあるのですけれども、これは友達や先生と生活する様子や、簡単なひらがなを書いたり、あるいは、学習をしたりする、いい学習の端緒にな

るなと思って読みました。

学校図書ですが、学校図書は、これも学校からの意見がありましたので、1年の最初の「ことばと友だち」というのが1番最初に出てくるのですけれども、学校生活の様子やひらがなの五十音までを興味づけして、教えようとしているところがあるのですが、子どもたちよりも動物が活動している絵が多く出てくるというのが、学校からでておりました。私もそうだなと、これを子どもたちにしてくれたほうがいいのになと思って見ておりました。次に三年以上の上の本では、最初の目次の後ろに、「何年生の国語の学習をはじめましょう」「何年生でつけたい力」というのが折込みで入っているわけですが、これは1年間の学習内容を示しているものですが、大変難しく、子どもには興味を引きにくい中身だろうなと思いました。やっぱりこれも、先ほど言いましたが、先生には参考になるだろうと思いますが、子どもたちにはどうかなという気がいたしました。それから3年以上の学年末の「何年生を振り返って」というところがあるのですが、大変抽象的なことが並んでおまして、友だちと話しましょうと言われても、これはちょっと難しいだろうなと思いました。「読書の部屋」で本の紹介をしていますが、他の三者と比べればちょっと少ないかなという気がいたしました。

以上、4者を比べて私は、書写との関係も考えながら、光村さんが一番適していると思ったわけですが、また、色々な意見を聞かせてください。

田中委員 : 山崎委員と共通するところは割愛して、1年の幼稚園から導入のところですね、それが、東京書籍さんと、それから光村さんがやっぱりしっかり書いていて、学校生活になじみやすいなというふうなところを強く感じました。それから、本の紹介ですね、それもこの2者がすぐれているかなというふうに思いました。後は、1年生を中心にみてゆくと、東京書籍さんが字も大きくて、写真も大きくてわかりやすいかなというところがあります。

ただ、指摘にもありましたように、量が多すぎるという観点もあるかもわかりません。ただ、先ほどの「鳥獣戯画」のところでもありますけれども、古典の教材の扱い方で興味を持たせるかなというふうに思いました。5・6年の分冊か、あるいは1冊かというのはちょっとどちらが良いのですか、これは賛否両論あって私自身判断つきかねるのですけれども、先ほど山崎先生が言われたような観点からするとやっぱり1冊の方が良いかなというふうな気持ちになります。後の2者は、ちょっと1年生向けの色合いが悪いとかもありましたけれども、ちょっとその2者からは少しはずれるかなということも考えています。学習の進め方、めあて、ふり返り等も東京書籍と光村はよく書かれていたなと思います。

以上です。

近藤委員 : 東京書籍、子どもの興味を引きそうな話が多く、低学年では、イラストも楽しいです。お話のうしろには、関連本の紹介があります。2年生以降では「図書

館に行こう」のページがあり、年間をとおして、本に興味が湧くようになっていきます。

学校図書、国語辞典、漢字辞典の使い方のページがわかりやすいです。4年生の「さわっておどろく」では、最後に触れてわかる点字の紹介があって、子どもの興味を引きそうです。4年生に「ポレポレ」というお話があるのですが、子どもに読んでほしいお話だなと思いました。

教育出版、大きい字も小さい字もフォントが読みやすいと感じました。1年生の「くまさんとありさんのごあいさつ」や2年生の「この間に何があった」など、楽しい工夫があります。お話の後の「たしかめよう」「考えよう」のページがわかりやすいです。

光村図書、2年生以上では、季節ごとに、季節の言葉のページがあり充実しています。2年生は自然、3年生はくらし、5年生は枕草子という感じで、特に、枕草子は季節ごとに教わるのはおもしろいんじゃないかなと思いました。3年生のローマ字のところでは、手書きをしたような文字がつかわれていて、小文字の丸みの書き方などがわかりやすいです。5年生の点字と手話のページでは、指文字や、触れてわかる点字の表があるのがいいと思いました。お話のうしろの「学習」のところは、見やすくわかりやすいと思いました。

以上です。

西村委員 : 上下に分かれていないほうが私もいいと思ひまして、詳しく見たのは、光村図書と東京書籍になります。光村さんのほうは、適度に難度があつて、国語が不得意な子も、もっともっと万遍なくいろいろな話が読めるように感じましたし、話の内容も、非常に面白い題材が多いなと感じました。内容がとても、昔から読まれているものも入っていますし、私の子どもが小さいときに読んだようなものも、昔から入っているようなものもあれば、現代的な話題もあつて、非常に面白く読みました。挿絵がとても柔らかくて、目に入っても優しい感じですし、配置も見やすい感じでした。

東京書籍さんのほうは、先生方おっしゃったように、本の紹介が非常に充実していますし、巻末の付録も非常に充実していたと思います。少し、白い部分が私には多いように感じて、かえってちょっと見にくいように感じました。フォントの関係かもしれないですけども。

他の、学校図書と教育出版に関しては、上下に分かれている段階で、詳しくは見えていない状況です。

新子教育長 : ありがとうございます。みなさんのご意見と評価を総括しますと、東京書籍、光村。共通するところは、上下分かれていないということですね。一つにまとめられている、あと、巻末の付録など、本の紹介などが充実しておること、このあたりが共通かなと思います。各単元の進め方がわかりやすいという

のも共通した部分でございますし、子どもたちの興味関心というかですね、そのようなところができているのではないかと。学習目的、振り返り等も充実しておるといったようなところがございます、2者に絞られるのではないかと感じておりましたが、最終的にどうでしょうか。二者どちらかに挙手願うということで、東京書籍さんいかがでしょうか。それでは光村ということで行きたいと思っております。

【挙手の結果】東京書籍 0 光村 4

湯浅主査 : それでは、保健について説明いたします。

保健につきましては、全部で5者でございます。

まず、「目標・内容について」です。学研3・4年生の教科書18ページをご覧ください。大阪府の選定資料では、「章末の『振り返る・深める・つなげる』では、記述式の問題が設定され、知識の定着を図ることのできる内容になっている」と書かれています。

次に「人権の取扱い」についてです。光文書院3・4年生の教科書33ページをご覧ください。調査員からは「ジェンダーについての取り扱いがある」との報告があがっています。

次に「内容の程度」についてです。大日本図書5・6年生教科書8ページから10ページをご覧ください。「発問や『やってみよう』の内容など、主観的に考えさせる問いが目立つ」といった趣旨の意見が学校からあがっています。調査員からも「学んだことを実生活で活用できるように、考えさせようとしている」との意見がでてきます。

次に「組織・配列」についてです。東京書籍5・6年生の教科書42ページから47ページをご覧ください。調査員からは「気づく、調べる、深める、まとめるというステップがあるため、学習の見通しを持ちやすく、自身の生活に活かせる」また「学習の最後に書き込み式のまとめがあるため、学習内容を確認できる」といった報告があがっています。また、部会からも「学習の終わりにまとめる所があり、児童にも定着しやすいように思う」との意見があがっています。

次に「創意工夫」についてです。光文書院5・6年生の教科書冒頭をご覧ください。調査員からは「著名人のインタビューが児童に向けたメッセージとして伝わりやすい」との報告があがっています。部会からも「児童の興味関心が高まると思う」との意見があがっています。

次に、「補充的な学習・発展的な学習」についてです。文教社5・6年生教科書38ページから47ページをご覧ください。調査員からは「喫煙と死亡率との関係や日本人の死因を表す折れ線グラフや円グラフなどのグラフ資料が多く掲載されている」との報告があがっています。学校からも「グラフ等が充実している」との意見があがっています。

次に「幼小中一貫教育の観点」からです。東京書籍5・6年生教科書81ペー

ジをご覧ください。調査員からは「最後に中学校に向けた健康や安全に関する目標を立てるページが用意されている」との報告があがっています。

最後に、選定委員会の審議について報告します。

文教社について、内容が簡単である、図や絵がやや見にくいという趣旨の指摘がありました。一方写真が大きくて見やすいとの意見もありました。

大日本図書については、版が小さいとの意見がありました。

東京書籍は内容が充実しているとの意見がありました。一方、体つきの単元では服を着ていない図が入っており、余計な情報となる可能性についての指摘がありました。

学研は体つきがシルエットで表されているのが良いとの意見がありました。

東京書籍、学研は内容が充実しており、がん教育についてもきちんと触れられているとの意見がありました。一方、文教社、光文社は衝撃の強い写真が使われている、扱いが小さいとの指摘がありました。

新子教育長： いかがですか。

山崎委員： まず東京書籍さんからいきます。今もお話ありましたが、随分厚いし、ページ数が多く、詳しい教科書だなあと思いました。他者と比べて、詳しいなというふうに思いました。単元、章になっているのですけれども、単元の見出しに、教材名と学習内容、目標が示されている。また、終わりの方には「学習をふりかえろう」があって、とてもわかりやすい教科書になっています。それから、先ほど事務局から説明ありましたが、各教材の学習の進め方はすべて、1番「気づく、見つける」、2番が「調べる、解決する」、3番が「深める、伝える」、4番が「まとめる、いかす」、こういう流れで構成されています。また、学習の課題もきちんと示されていて、自ら課題をみつけ、考え、話し合ったりして、学習できるようになっています。なかなか、考えさせるなという感じがしました。それから、教科書に書き込むスペースがたくさんあって、ノートがなくても、先生方が授業をしやすいなというふうに思いました。それから資料のページが充実をしていて、熱中症・ノロ・インフルエンザ・飲酒・喫煙・薬物、小学生でこれも必要か、と思ったのですが、心臓マッサージやAEDのことなどもでていて、小学生でもやっぱりこういうことは必要なんだなということを、改めて勉強させていただきました。喫煙や飲酒への誘いへの対処、こういうのも載っておりまして、なかなかよくできているなど、詳しいだけあるなという感じがいたしました。

学研さんですが、まず、単元、章のとびらに教材名と学習内容が示されています。終わりに「振り返る・深める・つなげる」があります。大変わかりやすい教科書の造りになっております。単元の途中に「もっと知りたい・調べたい」というページがあって、学習内容を広めたり、深めたりできるようになっており、これは、随分詳しいなと思いました。1時間の授業の流れ、進め方はすべて「つか

む」「考える・調べる」「まとめる・深める」こういう形で課題解決型の学習ができるようになっております。東京書籍さんと同じなのですが、東京書籍さんがちょっと詳しいかな、あるいは丁寧かなという感じがいたします。

大日本図書ですが、学習の進め方は「課題をつかむ」「やってみよう」「話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」という流れになっておりまして、この教科書もきちんと課題解決型の学習ができるようになっております。各章の終わりに、何年のまとめ、3年のまとめとか4年のまとめとか、まとめがありました。教科書には書き込むスペースがあります。これは先ほどでておりましたが、最も小さな版型、というか大きさを、ページ数も少ない、参考資料も少ない、そんな感じがしまして、ちょっと、もうちょっと情報があってもいいかなという感じがいたしました。絵や写真が小さく、見にくいなという感じがいたしました。

文教社さんは、学習の進め方は、課題があって、「振り返ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」「新しい自分にレベルアップ」という流れで、こちらの方も課題解決型の学習ができるようになっていたなと思えました。章の終わりに「私の何とか宣言」としてまとめをするようになっております。ちょっと文教社の本を読んでみて、流れは課題解決型の学習になっているのですけれども、どちらかという知識を大事にしてしまう授業になってしまうのではないかなという感じがいたしました。絵や写真、文字がちょっと小さいなあとという感じがいたしました。

光文書院のほうは、単元、各章の初めに教材名と学習内容が漫画で示されている。また、終わりには資料、さらに「ひろげよう・深めよう」「学習のまとめ」があって、大変わかりやすくなっています。学習の進め方も「1生活をふりかえる」「2学習課題をつかむ」「3調べよう、考えよう、やってみよう、話し合おう」「4学習のまとめ」「5生活にいかす、伝える」という流れで課題解決型の学習ができるようになっていました。しかし、ちょっと違和感を持ったのは学習のまとめですけれども、学習のまとめの問題が下の枠内から言葉を選んで記入すると、選択肢から選ぶようになっておると、こういう選択肢から選ぶものは最近では見たことがないものですから、ちょっと違和感を持ったなあと、普通に記入させたらいいのになあと思いました。文字が小さいと感じるページもありました。

以上です。

田中委員 : 先ほども説明ありましたように、東京書籍と学研がかなり詳しく書かれているかと思えます。2つを見比べますと、記入スペースについては、東京書籍のほうが、もともとちょっと大きめなのですかね、その点もあって、書きやすい。教科書とワークブックを兼ね備えた形であり、一番学習しやすいのではないかなというふうに思えます。あとの3者は全体的に内容が少ないかなという思いがありますので、先ほど申しました、東京書籍か学研というふうに思えます。ただ、記入のスペースとかを考えてゆくと、東京書籍かなというふうに思えます。

近藤委員 : 東京書籍、「調べる・気づく」などのステップごとの書き込み欄が書きやすそうでした。紙質がつるつるでなく書きやすそうです。ケガの対処法の表はわかりやすく載っていました。3、4年生の体の部分の名前のところは、英語でも載っているの、いいなと思いました。一之瀬メイさんの話が5、6年生にあったのですが、子どもに読んでほしいなという風に感じました。

学研についてです。イラストの部分が見やすいなと感じました。3、4年生の初めのほうの、1日の生活の仕方のところは、例も時間も入っていて、比べやすいなと思いました。発育・発達の単元では、色々な人の体験談が多く載せてあるのは、子どもたちにとって安心につながって、良いなと思いました。

光文書院についてです。2冊ともに、スマホ、インターネットの使い方のページがあります。性についての悩みに触れられていて、相談窓口の紹介があるのはいいと思いました。以上、いいかなと思った3者についてです。

以上です。

西村委員 : 特に5、6年の教科書を中心に見ていたのですけれども、心の発達と、ケガの防止、病気の予防ということで、これからの生活の役に立つことが、情報量としては東京書籍が一番詳しく載っていたと思います。睡眠のことであるとか、スマホの使い方今は危険性だけではなく、上手に使うにはどうしたらいいのかとか、そういうところもちょっと書かれていたので、非常に印象が良かった教科書です。

学研の方も同じくらい情報量があったかと思うのですけれども、ちょっと情報の提示の仕方が、イラストが小さいものもたくさんあって、少し見にくいかなというのがあって、どちらかと比べると、東京書籍の方がまとめ方が上手かなと感じました。

新子教育長 : ほぼ全者共通するのが、課題解決型で進められる、あるいは、少人数によるこれからの学習、アクティブラーニング的などところに対応できるといったところでは、共通する部分も多かったのですけれども、情報量であったり、これから子どもたちが、生活していく上でという情動的なものは東京書籍が良いのかなというふうに感じました。または、記入欄等も使いやすいというふうなところ、学研の方についても、同じようなご意見があったのですけれども、東京書籍さんの方でと私は思っております。よろしいでしょうか。

吉田指導主事 : それでは地図について説明いたします。

地図につきましては、東京書籍と帝国書院の2者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてですが、日本地図の取扱いといたしましては、東京書籍は地域別の地図は地方図を含め、21ページ、帝国書院は24

ページとなっております。次に、世界地図についての取扱いですが、両者とも7ページとなっております。日本の自然・産業等を含む統計、資料につきましては、東京書籍は12ページ、帝国は8ページとなっております。

各者のページ数といたしましては、東京書籍は全102ページ、帝国は全120ページとなっております。

次に「人権の取扱い」についてですが、特徴的なものとして、東京書籍ではページ17に沖縄のひめゆりの島、ページ18に尖閣諸島の写真など、地図ページの中に写真を多く取り入れております。帝国では、ページ75からの世界地図に、それぞれ文化を示す写真を掲載しております。

次に「内容の程度」についてですが、教科部会からは、東京書籍は「自然災害の取扱いが充実している」、帝国はページ47にあります「京阪神の取扱いは20万分の1のページがあり理解しやすい」「柏原市がピックアップされている」といった意見がございました。審議の中では、まず地元のこと、大阪のことを学べるのがよいという意見がございました。

次に「組織、配列」についてですが、東京書籍では、ページ5、ページ6に、帝国は表紙裏目次があること、また、47都道府県についても、東京書籍はページ5、ページ6に、帝国は最終ページ見開きと、それぞれ見やすい場所に掲載されており、配列も「広く見る地図」から「くわしい地図」を系統立てて組み合わせることにより、幅広い学習に活用できるよう工夫されております。

次に「創意工夫」についてですが、東京書籍にはページ96に説明があります「Dマーク」があるページについては記載のQRコードからリンクが貼られておりますサイトから、帝国では、地方ごとにQRコードが載っており、リンク先のサイトから、それぞれスマートフォンやタブレット等も使用できるページがあり、47都道府県の名称や位置を確認したり、地図記号を活用したりするクイズ等を行うことができます。調査員からは、東京書籍は「写真を使って説明している」、帝国は「色彩豊かに見やすく説明している」といった意見がありました。また、学校からは、東京書籍は「さくいんにチェック欄があり、どれだけ調べたかが一目で分かる」、帝国は「さくいんが地名だけでなく、史跡、世界遺産にまで記載がされている」といった意見がございました。

また、東京書籍ではページ99ハザードマップを見る際、着目する点が示されている点、帝国については、ページ91から「防災マップづくりの手順が示されている点から、審議の中で、「これらの緊急・防災の対応が書かれているのはよい」といった意見もございました。

「補充的な学習・発展的な学習」についてですが、調査員からは、帝国では『「地図マスターへの道」で補充、発展学習を行っている」という意見がございました。また学校からの意見としましては東京書籍には「盛りだくさんであるが、色々なことが学べて教科を越えて活用できる」という意見がございました。

最後に「幼小中一貫教育の観点」についてですが、調査員、教科部会からは

特に意見はございませんでしたが、両者ともイラストを多用していて幼稚園児でも興味を持って閲覧できるよう工夫がされており、また、中学校の地図帳と比べても遜色のない詳しい内容が掲載されておりました。

最後に、選定委員会の審議について、報告いたします。

帝国書院について、「大和川の付け替え等、大阪のことを多く扱っている。」
「大阪のこと、地元のことを学べる方がよい。」との意見がありました。また、同じく帝国書院について、「色合いが明るい」「見渡す地図から学ぶところが分かりやすい。」「緊急対応と防災が入っているものがよい。」との意見がありました。以上で説明を終わります。

新子教育長： 2者でございます。

近藤委員： 東京書籍から。10ページぐらいからみます。導入部分の「真上から見ると地図になる」「市を見わたして」が地図と見比べて楽しく、地図の見方を自分で発見できます。それから、ページに付いている、各ページのキャラクターの問いかけが、地図を読み取るヒントが多くていいなと思いました。73.74ページの「貿易」なのですが、この地図はとても分かり易く表現されているなど感じました。帝国書院についてです。表紙の表面の加工が傷が目立ちにくそうでした。地図帳の使い方が、地図帳の最初の方にある、「使い方」の部分ですね。そこが大きくて、こういうとこですね。こういう、この辺り。ここが大きくて分かり易いなと思いました。地図の色合いが薄く字が読みやすく感じました。先ほどもありましたが、京阪神20万分の1の地図があって、4年生の授業で役立つそうです。日本の気候、89.90ページの日本の自然の気候の様子が、冬と夏と分かれて載ってあって、特徴が分かり易くて比較しやすく工夫してあるなど感じました。やっぱり、柏原の子にとって、柏原が大きく載っているというのはいいなと思いました。

以上です。

新子教育長： ありがとうございます。

山崎委員： 「北方領土・竹島・尖閣諸島」両者ともきちんと日本全土の中にもあるいは「個別の地図」の中にも、日本の領土として示されていました。それから、近藤委員もおっしゃいましたが、京阪神20万分の1というのが、これはもう帝国にしかないんで、東京書籍にはないので、しかも「大和川のつけかえの絵」とともに載っているというので、すごいなと思いましたね。それから、近畿地方の50万分の1は、これは柏原市、両方とも東京書籍にも柏原市あるし、帝国にもあるんですけど、100万分の1というのには、これはもう帝国にしかないんで、柏原市が載っているのは、だから、帝国さんは柏原市さんの、えらいひきたてて

いるなと思って見ておりました。あと、地図の分かり易さでいくと、近畿地方の50万分の1で比較したんですけども、東京書籍の33, 34ページ、それと、帝国の45, 46ページを比べてみましたら、帝国のほうが山地から平野にかけてより立体的に見えるというんですかね、色使いによって立体的に見えるということと、文字がまず見易いというのがありますね。東京書籍さんはなんですか、ちょっと文字が見にくくなります。一つには、都道府県境が太すぎるといふのがあると思いますね。もっと細い線でかいたら、見易くなるのになといふふうに思いましたが、いずれにしても、帝国さんのほうが、これ子どもたちにとっては、小学生の子ども達にとっては、見易いなというのが、思いで、したがって、帝国さんのほうがいいなというのが私の意見です。

田中委員 : はい、もうお二人が言われていたんですけども、柏原市の市とか、抜けているというのは、やっぱり入ってる方が柏原市の子ども達にはいいんじゃないのかなというふうに思います。大和川の付け替えもそうですし、これだけ見ると羽曳野みたいに見えてしまう。そういった意味でも、郷土の事をしっかり学ぶということにもいいんじゃないかなというふうに思います。あとは、全体の色彩やっぱりね、先ほど説明があったように、国道か府道かわからないんですが310号線と370、こんなん書いてるから余計に見にくいのかもわからないですね、東京書籍のほうが細かすぎて、ポイントをしっかりと押さえてくれたり、柏原を重く見てもらっている、そんな気がするので帝国さんかなと思います。

西村委員 : みなさんとほぼ同じなんですけれど、東京書籍さんは情報がたくさん面白く提示してあって社会の副読本として見ると、とても楽しいかなとは思いますが、地図帳として考えると、地図の見易さとか、主にはそうですね、地図の見易さという点で、少し違うというか、大きく違うように私はやっぱり感じました。緑と茶色のコントラストがとても綺麗に作ってあるので、はい、

田中委員 : 目に優しいですね。

西村委員 : そうですね。はい、フォントがちょっと大きいのがたくさんあるのが、薄いフォントがちっちゃく、ちっちゃいフォントが薄く、大きいフォントが濃く書いてあるので、読み易くできているので。

新子教育長 : はい、ありがとうございます。

20万分の1にせよ100万分の1にせよ柏原がしっかりと、載っておるとありがたいという風に、まあ、見易いと、色合いというんですか文字がよく見易く、というふうなところでは、帝国かなと。東京書籍もご意見多かったのですけれども副読本的な感じと言うところであると、地図としてはというご意見

もございましたので、帝国のほうでお願い致します。

松浦指導主事： それでは、外国語について説明いたします。

外国語につきましては、全部で7者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてですが、各者とも、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取り上げられています。

三省堂6年生の教科書74ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「経験した表現や語彙などを活用して主体的に活動できる内容となっている」と書かれています。

次に「人権の取扱い」ですが、各者とも、教材内容や文章、写真などの資料等が、人権尊重の観点から配慮されたものとなっています。

光村図書5年生の教科書28ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「児童が学習しやすい4線の幅に対応したフォント、文字の大きさ、イラスト、当該学年配当漢字への振り仮名など、配慮されている。」と書かれています。

次に「内容の程度」ですが、各者とも、児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されています。

東京書籍5年生の教科書15ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「自己紹介、世界で活躍する人、中学校生活などについての題材が扱われており、スポーツ名や国名などが、教科書別冊のPicture Dictionaryとリンクしている」という趣旨のことが書かれています。

次に「組織・配列」ですが、各者とも、目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されています。学校図書6年生の教科書35ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「音声によるインプットと繰り返しにより4技能が習得できるよう取り扱われている」と書かれています。

次に「創意工夫」ですが、各者とも、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、工夫されています。

教育出版6年生の教科書89ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「各単元の「Activity」や「Final Activity」で、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、実際にコミュニケーション活動をする機会を持てるよう工夫されている」と書かれています。

次に「補充的な学習・発展的な学習」ですが、各者とも、各単元や複数単元を学習した後に、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されています。啓林館5年生の教科書60ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「各単元の最後のコーナーで、既習事項が定着したかどうかチェックしたり、感想や今後の目標を書いたりすることで、各自で振り返ることができる」また「QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる」と書

かれています。

最後に「幼小中一貫教育の観点」からですが、各者とも、中学校への接続を意識した内容が盛り込まれています。

開隆堂6年生の教科書102ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「中学校でつまずきやすい項目を取り上げている」、「小学校生活を振り返ったり、将来の夢や中学校でしたいことを発表したりするよう構成されており、中学校への接続を意識した内容になっている」と書かれています。

また同じく、学校からは「中学校への橋渡しとして、中学の内容に繋げるコンテンツが含まれている」という意見があります。

最後に、選定委員会の審議について報告します。

まず、光村図書及び東京書籍は、4線が不均等になっており文字のバランスが崩れてしまう等の意見がありました。

次に、東京書籍の Picture dictionary が別冊になっているのはとても良いという意見がありました。

次に、三省堂、啓林館、開隆堂、光村図書、学校図書、東京書籍はQRコードがあるが、調査員が確かめた際には問題なく聞くことができたが、教育出版のみQRコードがなく現場では発音が一番の課題なのでついていないのは厳しいという意見がありました。

次に、啓林館については、書くという視点から見ると中学校にかなり近く、6年生91ページの手紙を書く課題は大きく書かせる量であるという意見がありました。また、導入では活動が多く、今実施している外国語活動にとっても近いという意見もありました。

次に、学校図書は、授業の進め方が明記されているのが良いと意見がありました。次に、三省堂は書くことに特化しすぎて4領域のバランスが悪いという意見がありました。

以上で、外国語についての説明を終わります。

山崎委員： まず、開隆堂からいきます。私が見させていただいて、巻頭にCAN DO MAPページがありまして、自己評価をするようになっています。それから目次が大変わかりやすく文字学習のめあてや他教科との関連も書かれていて提示がしやすいようなページになっているなというのが感想です。各レッスンでは、身近な活動場面を設定して例えば名刺交換とか誕生日とかプロフィールカードとかこういう身近な場面を設定して学習するようになっています。それからまた、ペアやグループでの子ども同士の活動も多い。振り返りをする必要があって、やりっぱなしにならない工夫もされているなと思いました。終りの方に、巻末じゃないんですけど、終りの方に「文字に慣れよう」があり新しく入った「読む・書く」をしっかりと学習できるようにしている。5・6年とも20ページ以上あって大変充実をしているなど、「読む・書く」がしっかりと学習できるなと思いました。巻末にアルファベット順の単語リストがあって復習ができる、或い

は絵カードもたくさんあって、これも切り取って覚えられるということで、自分で復習や自習ができるなということです。それから6年の巻末付録に「中学へつなげよう」といって8ページにわたって、大事なことをやってみることができるようになっていました。それからさきほどもありましたが、書くための4線の幅が4：5：4というらしいですね。趣意書を見ましたら。小文字だけでなく大文字もちょうど書きやすくなっておりまして、この4：5：4は1番いいなというそういう感想です。

啓林館へいきます。

啓林館はレッスンではなくユニットという言葉になっておりましたが、ユニットが扉、それからパート1～2、パート3、そして振り返りとまとめられています。扉で導入とめあて、パート1～3で学習と活動、振り返りで振り返り、読む書くを学習する、内容が大変わかりやすくすっきりしているなど。それから毎時間の評価も「今日はどうだった」という評価もついていて、これもまあ一人ひとりの子どもたちには分かりやすいと思いました。各学期の最後にレビューがあり、ユニットで学習した表現の復習や活用ができるように工夫されていました。巻末にCAN DO リストがありました。これはさきほどの開隆堂さんのCAN DO MAP ページとはちょっと違って、ユニット別ではなくて5領域にまとめられているということで、5領域でのCANDO リストはちょっと評価しにくいんじゃないかなというのが感想です。巻末のワードリスト、単語リストや或いは絵カードはたくさんありまして復習や暗記ができるようになっていて、これは開隆堂さんとおんなじでなかなかいいなと思って見ておりました。書くための4線の幅、これも開隆堂さんとおんなじで文字も小文字も大文字も書きやすいという感じです。最後にちょっと啓林館さんは日本語の説明が多いなというのが開隆堂と比べたときの比較の観点です。

学校図書へいきます。大判の教科書というのは特徴的。最初にプレレッスンとして3・4年生の復習、6年生では5年生の復習、というのも入れています。レッスンに入りまして、レッスンの始めに目標と学習の進め方、次に見開き2ページで絵の導入があるんですけども、なかなかこの絵で導入するというのが、意欲的に学習に取り組ませようとしているんですが、なかなか難しいなと思います。できる先生とできない先生によって、見開きの絵を見てですね、どうして子どもたちにこう意欲づけをさせようかというのがなかなか難しいんじゃないかなということでまず見開き2ページの絵の導入はもっとわかりやすくできないかなというのが私の感想です。それから各レッスンの終わりにはユーズ&チェックとしてまとめてチェックができるようになっていてこれは大変役に立つなと思いました。巻末のワードリストもたくさんあります。それから書くための4線の幅も適当で、大文字も小文字も書きやすいと思いました。学校図書さんは繰り返し聞く、歌う、表現する、読み書きをさせるということで、繰り返しやるということがまあ基本のようで、まあこれが英語を理解する力を育てるために大切なこ

とということをこの教科書で示しているように思いました。

東京書籍さんへ行きまして、東京書籍さんも大判の教科書が特徴で、各ユニット、ここもレッスンではなくてユニットという言い方をしていますが、たいへん情報が多くて英語の苦手な子どもはちょっと混乱しそうなぐらい多いなという感じがしました。別冊のピクチャーディクショナリーがついていまして、それはすぐに薄いもんですからすぐに開いてみる事ができるし、読む書くの自学自習もできて大変いいものだと思います。それに反してまあ巻末コミュニケーションカードというのが巻末についているんですけど、振り返りやポートフォリオとして評価に使えるところ趣意書に書いてあるんですけど、私はこれがわかりにくいなと、まあこれは子どもたちにどう話をしようかなという感じがしました。書くための4線の幅、これは事務局の説明がありましたが、2線と3線の間が極端に広いもんですから小文字は書きやすいんですが、大文字が合わなくなってきましたね。ABFGHRなんていうのは、その線の間隔が合わないもんですからAの2画目なんかは線の下にいつてしまうんですよ。線に合わないということになってくる。これはちょっと書きにくそうだなという。

三省堂へいきます。5年生6年生とも、大きな単元が3つ、3つずつ。今までの教科書会社はまあレッスンやユニット、まあ細かく分けていたんですけど、大きな単元が3つずつになっています。単元をホップステップジャンプに分けて学習させるというのが特徴になっていますが、ホップで出てくる大単元、まあ大きな単元のテーマ、何を学ぶかがステップジャンプの中で違ったものになってきて、まあ単元の中で学ぶことがはっきりしないと、それがまあ僕だったらもっと単元を多くして、例えば開隆堂さんでしたらレッスン9までであるとか11までであるとかそういうふうな多くのレッスンを使っているんですけど、これも三省堂さんも単元多くして分かりやすく学びやすいようにした方がいいんじゃないかなという気がしました。見開きページで、見開き2ページの絵についているアルファベット、見開き2ページで絵がついているんですけど、例えば6年でいうと16、17ページなんかについているんですけど、アルファベットの単語が小さくて細かい見にくいなあという感じがしました。終りの方にCANDOリストがついていますが、三省堂さんもレッスンごとではなくて内容別にまとめられています。例えばこんな項目がありました。「将来の夢について先生や友だちと英語で伝えあったり質問したり答えたりすることができた」で、これでできたかあんまり自信がないか、こういうふうな答えを書くんですけどこれは自己評価しなさいといわれてもできたことあればできなかったこともあるよなあというふうになんか思ってしまうだろうなと思いました。これちょっと評価はしにくいなと思いました。巻末のワーク&フレーズは自習にも使えるなと思いました。書くための4線の幅も適当だと思いました。ただ、まあちょっといくつか三省堂さんは異議があるなと思いました。

教出へ行きまして、5年、6年ともレッスン9まであって、身近な題材を扱っ

ていて大変わかりやすい単元も多いなと思います。レッスンごとにレビューと振り返りがついています。そして巻末にワークシートを付けて各レッスンのまとめと振り返りを記入させるようになっていて、まあこれは先生方にとっても評価に使いやすいなと思いました。書くための4線の幅が適当で大文字も小文字も書きやすいなと思いました。ただ、さきほども事務局の説明でありましたが、QRコードが1者だけないということで、まあそれはどうなのかなというのが感想です。

光村さんにいきまして、CAN DOそれからレッツスタート、スタート教材ともに巻頭に入れたのが特徴です。5年6年ともに9ユニット、だから3つとかそういう大きなものではなくて9ユニットで身近で分かりやすいテーマになっていて大変学習しやすいなと思いました。目次も分かりやすくめあてとゴールを明示しています。ユニットはホップステップジャンプ、各見開きで構成しスモールステップで学習するように、させるようになっていました。また、学習のめあて、学習の流れ、振り返りがあってわかりやすいなと思いました。巻末の絵辞典、まあこれも充実していて単語の復習ができるなと思います。書くための4線の幅、これがまあさきほどありましたように2線3線の間が極端に広がってこれは大文字には不適當だなということで光村さんもちよっと write、書くということが今、新しく5・6年で出てくるわけですけども、書くためにはちよっとこの4線の幅は考えていただきたいなというのが感想です。

まあ、ということで7者ありましたが私は開隆堂さん、まあ啓林館さんもいいかなと思ったんですが、開隆堂さんが適当かなというのが私が思ったところです。

新子教育長： ありがとうございます。はい、お願いします。

田中委員： 私は最初に東京書籍を見させていただいて、まあ別冊、分冊の Picture dictionary がなかなかいいなというふうに感じました。まあQRコードもたくさんあって使いやすいかなというふうに思いました。写真やイラストのバランスもよくていいなということがあるんですけども、さきほどちよっと言われてた3線ですか4線ですか、これはちよっとよく分からなかったの、いいとこしか感じなかったということです。

それから次に開隆堂さん、どちらかというわけではないんですが、開隆堂さんのほうはCAN DO MAPの最初に、特に5年の導入のところでしっかり示してあって、非常に外国語に初めて入る子どもたちにとってはわかりやすいかなというふうにも思います。で、巻末のノートもわかりやすいということでそれもすべてかなと思います。

それから後の5者についてはそれぞれ気になるところがありまして東京書籍さんと開隆堂さんと学校図書さんかなという思いをもっています。以上です。

新子教育長： ありがとうございます。お願いします。

近藤委員 : はい。適当かなと思いましたが3者についてお話いたします。

開隆堂の5・6年ともにさきほどからあがっていましたが「文字に 慣れよう」というページが充実していました。特に5年生では、間違いやすいポイントや形について、上手に説明されていました。小文字などですね。子どもたちにとって小文字は覚えにくくそこが詳しいのはありがたいなと思います。それからアルファベットの音を聞き取る練習もたくさんありました。90ページあたりからですね。それからパーティーを楽しもうという33ページのところからあるんですが、これはすごく楽しそうな学習内容で英語で話したいなという気持ちが高まるのではないかなというふうに思いました。

学校図書です。5年生の最初の方のクラスルームイングリッシュというところ、挨拶がたくさん紹介されています。で、ページのQRコードでは教科書には載せていない日本語訳と一緒にこの内容が出てくるので、興味のある子は自分でも覚えることができるなと感じました。

それから啓林館です。「リズムに合わせていみましょう」という項目では、赤い丸がついているので強めによむ印がついていてわかりやすいなと感じました。それから6年生の最初のプレユニットというところに、7ページ8ページあたりですね、中国語とか韓国語とかが載っていて、QRコードで聞くのもあるので、英語以外にも興味が広がっていきそうだなと思いました。それから後ろについてるカードに切込みがはいっているので、便利だなというふうに感じました。

以上です。

新子教育長 : ありがとうございます。西村委員お願いします。

西村委員 : はい。開隆堂の方なんですが、まず最初が大きくない、分厚いんですけども、大判ではないのが取り扱いやすいので、日本語が多すぎず割と端的に書いてあるので、指示がわかりやすいように思います。開隆堂さんの最後のこの教科書で学んだことリストは、非常に「歌いましたか」とか「考えて書きましたか」とかレッスンごとに細かく聞いてくれるので、こちらは自分がこの単元で何が出来たかが分かりやすいように思います。内容の構成も1学期ごとに何かをめざすというよりもレッスン1レッスン2で、それぞれ関連性はないけれども生活に使えるような言葉がレッスンとして挙がっていて、そこにプロジェクトが入るということで身近な言葉として、生活の身近なことと英語と結びつけやすいようにも思いました。

学校図書さんなんですけど、サイズは大きいんですけども、その分書き込み やすいし見やすいという点にもなると思いましたけど重いなというふうに思いました。あと説明に日本語がちょっと多すぎるかな、かえってそこを讀

むことで感覚的に分かりにくいときもあるかなというふうに感じました。

あと、啓林館さんは、フォントがUDで読みやすいなという印象がありました。ちょっと見にくいかなというところです。

新子教育長： はい、ありがとうございます。7者ございますが、主に開隆堂、学校図書、啓林館が中心に話し合われたのではないかなと思います。特に開隆堂さんにつきましては、中学校へつながるというふうな内容でもそうですし、新たに国が求めている内容に1番沿った部分もあるのかなというふうに私も感じるんです。復習しやすい自学自習ができる内容、あと委員さんからもいいと書きやすいとふうな内容でございます。啓林館、学校図書さんについても内容的にはいいご意見というか好評なご意見もあったんですけど、考えていかなあかんのは、中学校とのつなぎっていうんですかね、そういうふうなところをしっかりと見ていかなければならない。というふうなことも含めて、開隆堂さんでいかがでしょうか。

【教育委員 同意】

新子教育長： それでは開隆堂でお願いします。

浅田指導主事： それでは、図画工作について説明いたします。

図画工作につきましては、全部で2者でございます。

まず、「目標・内容の取扱い」についてです。日本文教出版3.4年生下の教科書、10ページから13ページをご覧ください。調査員からは、「学習のめあて、振り返りだけでなく、片付けの仕方や気を付けることも書かれている」「設定は高めだが、内容が工夫されており意欲的に創作活動、造形活動に取り組める」との報告があがっております。

開隆堂出版同じく3.4年生下の教科書、8、10、12ページをご覧ください。調査員からは、「学習のめあてが、どのページにも同じ位置に掲載され工夫がみられる」との報告があがっております。

次に「人権の取扱い」についてですが、両者とも、全ての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されております。

次に「内容の程度」についてです。日本文教出版3.4年生上の教科書18、20ページをご覧ください。調査員からは、「製作過程の写真が掲載されており、子どもたちの興味を引きやすい」「造形活動の利用空間が広くのびのびと活動できそうである」「材料が比較的身近なものを利用している」との報告があがっております。

開隆堂出版5.6年生上の教科書36、38ページをご覧ください。学校か

らは、「単元によって使用したい道具などがイラストで書かれている」「振り返りのポイントも分かりやすく書かれている」「他の教科との関連が載っている」との意見があがっております。

次に「組織・配列」についてですが、両者とも、1. 2年、3. 4年、5. 6年で各上下巻の構成になっており、それぞれの学年の目標を踏まえたテーマが設定されております。

次に「創意工夫」についてです。日本文教出版5. 6年生上の教科書8ページから19ページをご覧ください。調査員からは、「写真が多く掲載されている」「外国の同年代の子どもたちの作品も掲載されており、その文化に触れることができる」との意見があがっております。教科部会からは、「製作過程が紹介されていて作り方がわかりやすい」「素材の大きさも丁寧に書かれている」との意見があがっております。学校からは、「子ども視点の写真が多く使われ、イメージしやすい工夫がされている」との意見があがっております。

開隆堂出版5, 6年生上の教科書14ページから17ページをご覧ください。調査員からは、「その学年で使用する道具の使い方、注意点が掲載されているので、安全に使用することができる」との報告があがっております。学校からは、「自然や身近なもので作れる作品が多くて良い」との意見がある一方、「準備物がある作品がおおいので、準備とお金に時間がかかる」との意見もあがっております。

次に「補足的な学習・発展的な学習」ですが、両者とも、図画工作を通した伝統文化について紹介されており、QRコードや、デジタルマークを掲載するなど、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができます。

日本文教出版3, 4年生上の教科書58～65ページをご覧ください。調査員からは、「巻末に様々な材料や道具の使い方が掲載されており、役立てられそうである」との意見があがっております。学校からは、「補充のページがあり、各学年の発達段階にふさわしい内容が扱われている」「様々な造形活動、造形遊び、鑑賞が掲載されおもしろい」との意見があがっております。

開隆堂出版について、学校より、「学びの資料（補充のページ）数が多い」との意見があがっております。

次に「幼小中一貫教育の観点」からですが、両者とも、幼稚園・保育園での造形遊びからの、スムーズな接続が可能であると考えられるとともに、発達段階を考慮した学習の中で、確実な知識と技能を身に付け、中学校への学習へ繋がる内容であると考えられます。

最後に、選定委員会の審議について報告します。

日本文教出版について、学校における「図工」の時間がイメージできる。全ての教科を教える小学校教員の特性として、経験の浅い先生にも扱える教材として良い、との意見がありました。

また、日本文教出版について、調査員からの報告どおり、制作過程・工程の

写真が多くあり、現場としては使いやすい、との意見がありました。

以上で、図画工作の説明を終わります。

新子教育長： いかがでしょうか。

山崎委員： まず、日文ですが、各題材のページでは、学習のめあてを持って学習し振り返りもできるようになっています。また、教科書には、実際の授業で撮影された写真や作品を載せて、学びのプロセスがわかりやすくなっています。片づけの方法も大切にしています。題材の内容が豊富で、材料に直接触れ、楽しく活動できる内容になっています。開隆堂さんと比べて、ページ数が多く、丁寧に作られているというのが感想です。芸術作品を鑑賞する力は、大人になっても大切であり、是非とも小さいころから鑑賞するということを学ばせたいと思っていますが、日文さんは、教科書美術館だけでなく、他のページにも芸術作品が多くあり、鑑賞する力が付けられるようになっているなと思いました。巻末8ページにわたり、使ってみよう、材料と用具があり、材料と用具についてわかりやすく丁寧に学べるようになっていました。最後に、右利き用と左利き用のハサミの使い方、これは両者ともに書かれていましたので、いいなと思ってみておりました。

開隆堂さんの方ですが、各題材のページでは、学習のめあてと振り返りがあり、めあてを持って学習し、振り返りもできるようになっています。本時の材料がまとめて示されていてわかりやすくなっています。子どもたちの活動中の写真や作品が日文と比べて少ないように思いました。一つには、日文さんの方がページ数が多くて丁寧になっているのだと思います。芸術作品を鑑賞するために、鑑賞のページを作っています。また、他の教科との関連も示されています。巻末8ページにわたり、学びの資料、造形の引き出しとこういうものがありまして、材料と用具についても学べるようになっていました。

以上のことより、より詳しく丁寧な日文さんの方が適切かというのが私の感想です。

田中委員： 開隆堂、日文それぞれ特徴があってそれぞれ甲乙つけがたい。

開隆堂さんの方は、教科書自体、一番最初の「力を合わせて」、「心をひらいて」とタイトルが学年によって変わっていくのが、成長に応じていいかなと思います。写真自体が見やすいのと、めあてが同じ場所に書いてあり、必要なものが同じ場所にある、そういう意見で使いやすいかなと思います。日文さんの方は過程がよくわかるという、両方あるので、一応、めあても振り返りもしっかりしているので、甲乙つけがたいです。

近藤委員： 日文について。めあてや作り方がわかりやすいと思いました。最初のページ

の教科書美術館、それから真ん中のひらめきポケットがすごく楽しくてじっくり見たいなと言う感じ。子どもたちもきっとそんな風に思うのではないかと思いました。開隆堂について必要な材料や道具が左上にあって、見やすい。5. 6年の最初の風神雷神図屏風がすごく大きく見ごたえがあってとってもいいなと思いました。先ほどもありました、全部の本の題名が違うのは楽しくて、子どもたちが楽しいのではないかと思いました。

以上です。

西村委員 : 日文について、同じようなことになってくると思いますが、日文さんの方が、写真が大きくたくさんあり、興味をひく、こんなのもあるんやというのが非常にたくさん、思いつきにくい子には参考にもなるでしょうし、思いつく子にももっと広がるという点でいい感じでした。道具の使い方がわかりやすいと思いましたし、間に入っている先ほどおっしゃった写真、美術館とか、ひらめきなども非常に工夫がされていて分厚くなっているのだと思います。

開隆堂について、道具の使い方に関してはこちらが分かりやすいかと思いました。教科書という点ではめあてが非常によくわかりやすく、教えてもらうという点で美術の勉強としては、教科書っぽいのですが、美術のいろいろな作品を観る教科書としては日文さんのほうがわかりやすい。

新子教育長 : 2者ともほぼ内容的に甲乙つけがたいが、ただ、日文さんの方が題材が豊富である、興味関心がわく内容である、道具の使い方も分かりやすい、現場の声、若い先生方が多い中、使いやすい、教えやすいと言う声ございますので、日文がよいのでは。日文に決定します。

浅田指導主事 : それでは、算数について説明いたします。

算数につきましては、全部で6者でございます。

まず、「目標・内容の取扱い」についてです。東京書籍5年生の教科書21ページから25ページをご覧ください。調査員より、「複数の考え方を示すことで、多様な見方・考え方を育むことができる」また、「発問がシンプルで子どもの多様な意見を引き出しやすい」との報告があがっております。

同じく教育出版3年生上の教科書7ページから9ページをご覧ください。調査員より、「問題発見・解決の過程を『はてな?』『なるほど!』『だったら!?』の吹き出しで示し、子どもの問いの連続によって学習を進めるスタイルになっている」との意見があがっております。同じく教育出版6年生の教科書100ページから107ページをごらんください。教科部会より、「円の面積の学習において、他者と比べると資料としてついている図が詳しくわかりやすい」との意見があがっております。

次に「人権の取扱い」についてですが、各者ともユニバーサルデザインの観点

より、フォントや配置、色、図などが工夫され、全ての児童に扱いやすいように配慮されております。

次に「内容の程度」についてです。日本文教出版2年生下の教科書100ページをご覧ください。調査員より「2年生以降の下巻末『算数アドベンチャー』では、既習内容を広げたり深めたりする探究的な問題になっている」との報告があがっております。

次に「組織・配列」についてです。学校図書4年生上の教科書36ページ、37ページをご覧ください。調査員より「領域ごとの学習の積み重ねを意識した『ふりかえろう つなげよう』のページを設定して、板書を使って学年を越えた振り返りと中学校との関連を明確にしている」との報告があがっております。

次に「創意工夫」についてです。啓林館1年生教科書10ページ、14ページをご覧ください。教科部会より、「教科書内にたくさんのQRコードがあり、子どもの理解を助ける動画が多い」との意見があげられています。また、調査員より、「多様な考え方に触れられる場面がある、友達の考えと比較している」との報告があがっております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。大日本図書3年生の教科書36ページ、53ページをご覧ください。調査員より、「単元末の確かめ問題がある」「ふりかえりや学び直しができるページがある」との報告があがっております。引き続き123ページ、154ページ、236ページをご覧ください。同じく調査員より「ゲーム等の問題が多い」との報告があります。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。東京書籍1年生の教科書をご覧ください。教科部会及び、学校より、「4月に行う別冊（さんすうのとびら）の内容は、幼稚園・保育園で習ったことが小学校の算数と繋がっている」という趣旨の意見があがっております。また、調査員より、東京書籍、学校図書、大日本図書、日本文教出版において、中学校に繋がる学習内容あるとの報告が、啓林館において、教科部会より、「幼稚園での学習と小学校の算数が繋がっていることがわかりやすい」との意見がございます。

最後に、選定委員会の審議について報告します。

まず、東京書籍及び啓林館の1年生の教科書について、幼稚園との接続への配慮が丁寧で、消しゴムの跡などで汚れにくい、との意見がありました。一方、大日本図書は、ブロックを置いて考える問題で、教科書の見開きの上に置かせる等、配慮不足との指摘がありました。

次に、東京書籍、教育出版、日本文教出版、学校図書、啓林館について、3年生下の教科書の巻末、大日本図書についても巻末をご覧ください。6者ともに、3年生の三角形の学習における付録がよい、敷き詰める作業に繋がる、という趣旨の意見がありました。

次に、5年生の教科書を手に取ってご覧ください。上下別れている場合は上の教科書をご覧ください。教育出版、日本文教出版、学校図書、啓林館、そして、

大日本図書において、「小数のわり算」の単元で、「割られる数」を10倍して考えさせたい場面で、適切な数字が使われている、という趣旨の意見がありました。東京書籍のみ、2倍にして考える問題になっている、との指摘がありました。

次に、2年生下の教科書を手にとってご覧ください。掛け算の九九学習で、東京書籍、学校図書、啓林館、教育出版は5の段から、大日本図書、日本文教出版は2の段から学び始めることについて、時計の学習において、5のまとまりを1～3年生で学ぶため、子どもがイメージしやすいのは5の段からの導入ではないか、という趣旨の意見がありました。

次に、東京書籍2年生上の108ページでは、活動が充実していてよい、との意見がある一方、同じく2年生上の104ページのタングラムは、他者の図形の導入教材に比べて、分かりにくいとの意見がありました。

次に、学校図書の版の大きさについて、使いにくのでは、との意見がありました。

以上で、算数の説明を終わります。

山崎委員：東京書籍からいきます。1年生を2分冊にし、第1分冊は2単元のみで最初の分だけをA4大判にして、算数の機能もたせる算数学習のスタート、これが特徴的です。目次のはしに前の学習と後の学習があり、躓いたり発展させたりするのにいいと思います。算数は、国語について、週当たり5コマ、毎日算数があるので、ぜひとも嫌にならずに頑張ってもらいたいと思っています。単元の導入で既習事項を振り返り主体的な学びのきっかけとし、単元の終わりではたしかめようで振り返ってまとめ学習ができるようになっていきます。授業の流れは、問題があって、考え、やり方を説明した後、まとめを行う、その間に虫眼鏡のマークで数学的な見方や考え方を子どもたちに示しているというやり方。ノートを作ろう・マイノートで問題解決の過程を書かせるノート作りをさせています、算数では思考をまとめるノート作りが子どもたちには大切である。2年以上は巻末にプラスというコーナーを設けて、ページで補充問題で自習ができるようにしています。例えば6年生では補充問題に加え面白い問題も17ページあり随分たくさんあり充実しています。学校から出ていた意見ですが3年上で、最初の掛け算割り算の間に時刻と時間の学習が入っており、掛け算、割り算が連続していない。掛け算、割り算が続けていた方がいい。

啓林館にいきまして、単元に入る前に、準備コーナーがありそこに問題があり、準備の問題をしてから単元の最初に単元の扉で既習、単元末に振り返りやってみようで、学習内容の理解と定着を図るというやり方をしています。巻頭にわくわく算数ノートとして考えがよくわかるようなノートの書き方を教えています。今、啓林は主体的に学習ができるよう、授業では問題、めあて、自分で考え、発表したり、話し合ったり、まとめがあったり、そして練習と、練習問題もたくさんあるのが特徴であります。2年生以上、巻末に学びのサポートがあり、もっと練習

という問題があり自習できる。6年生では20ページあり、さらに練習量が多く、ページ数でみると東京書籍より啓林の方がページ数が多い。その分練習問題が多いということを感じました。

教出ですが、単元導入でどんな学習が始まるかの目的意識を持たせ、単元末で学んだことを使おうで、日常での活用を考えさせています。問題、考える、話し合う、振り返るの問題解決の方法を、「はてな」、「なるほど」、「だったら」と分かりやすく示しています。ノート書き方も各学年分指導されています。友だちのノートを見てみようというのが、それぞれ2か所ずつありました。巻末の学びのマップでおさらいできる。あるいは、巻末のステップアップ算数で自習問題もできるというような組み立てになっていました。

大日本図書の方は、全学年1冊にまとめられているのが特徴的です。目次のはしに前と後ろの学習があり、つまずいた時に振り返りや発展させるのにいいと思います。単元の最初に新しい学習が始まるよ、という導入のページ、最後は確かめの問題で練習ができるように作ってあります。教材によっては、問題をつかもう、自分で考えよう、学び合おう、まとめよう、使ってみよう、振り返ろうなど学習の流れが示されていました。巻末の補充はプラスワンがあります。全体的感想としてはシンプルで比較的簡単だと思いました。逆に言えば、わかりやすく説明が多いと思いました。6年の分数の割り算を何者か比べると、大日本は帯分数がでてこないのはなぜかと思いました。

学校図書ですが、教科書ワイドなので余裕がある書き方をしている。6年生は中学校へのかけはしで、別冊が付いているのも特徴です。単元の最初に、「はてなを」発見で問題を見つける学習をしています。単元末にできるようになったこと、学びを活かそうで充実させています。授業の中で、調べたいな、考えたいな、表したいななど、「～したいな」という子どもの言葉で主体的に学習を進めるよう工夫していました。アクティブ、活動のページを作り、自分で考え、班やクラス全体で考えたり話し合ったりする対話的で深い学びを追求するというシステムをとっています。巻末に補充問題があり自習できるようになっています。巻末の今の自分を知ろうという、自己評価の欄は、算数とは思えない感じがして、どうしてこんなのを作ったのかと思いました。6年の分数÷分数の単元を比べてみたが、学校図書さんも内容がシンプルで分かりやすく簡単に説明しています。

日文ですが、巻頭に算数学習の流れを、どんな問題か考えよう学び合おう振り返ろうと問題解決型の学習を全学年通していました。算数の特徴でノートの書き方を教えていました。単元導入で課題を見つけ意欲的に新しい学習に入れるようにしています。確かめポイント、分からない時は、フィードバックの問題で振り返りができるようにしていました。巻末で補充問題、応用問題、発展問題もあり、習熟度に応じた学習にも使える工夫がしています。6年分数の割り算はわかりやすく説明は丁寧だが、もっと問題をこなせるようたくさん練習を入れてもいいのではという感想をもちました。

以上のことから東京書籍か啓林がいいのではと思いました。

田中委員 : 東京書籍ですが、1年上の教科書がワークシートみたいで薄くて、使いやすく算数に対する苦手意識が薄くなる。全てではないですが、問題を解く際の答えが裏ページにあり、答えが見開きになると答えをみてしまうので見えなくてよい。分数も分かりやすい。

日文さんの方は、文字図色合いも見やすく、発問がシンプルで、ヒントも少なく考えさせるのもよいと思います。

啓林ですが、あとは差がないですが、気になったのは、面積の導入ですが、三角形ではなく平行四辺形を使った方がよいのではないかと懸念がある。

以上です。

近藤委員 : 適当かと思った3者について説明します。東京書籍ですが、写真が多くあり、子どもにとって身近に感じそうです。多角形では傘、足し算では駄菓子などの写真が出ていました。特に、6年128ページのおよその面積と体積では、東京ドームと甲子園が例にあがっていて、わかりやすく興味を持ってそうです。4年生以上にある算数で読み解こうは今後重要になってくるデータ活用に詳しく、内容も現代に合っています。6年生196ページ、QRコードの内容も充実していて、プログラミングもできるようになっている。

啓林館ですが、吹き出しのこどもがしゃべっているヒントが分かりやすいと感じました。QRコードは教科書ページに合う内容がすぐに出てくるので便利だと思います。4年上では、付録に分度器がついています。長く使うものではないので、買わなくてよいのがありがたい。

教出ですが、文字がはっきり読みやすいと感じた。しかし4コマ漫画は見にくいです。4年以上の広がる算数というコーナーは、後ろのほうにあるが、子どもが興味を持ってそうな内容がたくさんあります。6年最後には算数ワールドとして、中学校の内容がわかりやすく取り上げられていました。

西村委員 : 3者について、割り算、面積、6年生教科書を中心にみました。

東京書籍ですが、1年あたらしい算数は入り口として非常に好印象でした。覚えているかなは、算数が得意な子には、楽しそうな内容で文章量が多いが、算数が得意な子には問題はないが、算数が苦手な子にはしんどいと思いました。

啓林館ですが、わくわく算数広場、中学校への発展など興味深いことが多かったです。算数・数学としての解き方の流れが明確に示されている、シンプルでわかりやすいです。

教出ですが、こちらも、字がページに対して小さい。つまっていて読みにくいです。算数はだんだん学年が上がれば上がるほど、何の勉強をしているかがわ

かりにくくなるが、目次は大事だと思うが、目次は目を引いて楽しい。目次の内容そのものはわかりにくい。

啓林か東京書籍がいいと思いました。

新子教育長： ありがとうございます。

主に東京書籍、教出、啓林の中では、啓林館かと言うところかと思うのですが。

西村委員： 田中先生がおっしゃった平行四辺形を使った面積の導入についてというのは、面積の導入についてですが。

田中委員： 何年生かな。5年生。啓林館129ページですね。三角形は2分の1しないといけないので、順番からいうと平行四辺形からと思うのですが、これはどうか。三角形を足したら平行四辺形になるし、長方形の面積は最初出しやすいので、長方形、正方形、平行四辺形一般かなと思う。長方形を半分にしたら三角形になる。

そのあとに平行四辺形が出てくるのだが。啓林は三角形が先なんです。2分の1をつけないといけない。2で割って、2をまたつけないといけない。

まあ、他のこともあるので。

新子教育長： みなさんのご意見の中から挙手でお願いしたい。

田中委員： それぞれに良し悪しがある。気になることがありますね。

山崎委員： 田中先生は日文さんもいいとね。

田中委員： こたえが。他の方も意見もあるので。

新子教育長： 挙手をお願いします。

東京書籍 1名。では、啓林 3名。最後、私、啓林館。啓林館に決定ということで。

長時間ありがとうございました。

11教科13種目審議が終わりました。ありがとうございました。課長の方から審議についてよろしくをお願いします。

石田課長： まず、国語 ですが光村でまちがいないでしょうか。

保健は 東京書籍。
地図は 帝国。
英語は 開隆堂。
図画工作は 日文。
算数は 啓林館。
間違いないでしょうか。

新子教育長： 長時間にわたりありがとうございました。議案第32号、「令和2年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について」の議事を終了いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和元年 月 日

柏原市教育委員